

羅臼町水道事業ビジョン（案）【概要版】

1. 策定の趣旨

本町水道事業は、人口減少や少子高齢化、節水型機器の普及等により水需要が低迷し、水道料金収入の減少が続く一方、施設・設備の更新や耐震化への対応など、事業経営を取り巻く環境は厳しさを増しています。

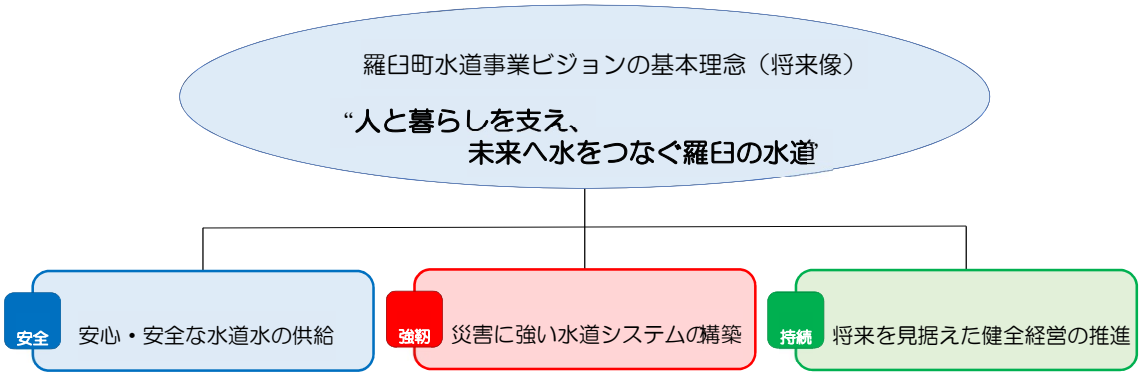
このような状況を踏まえ、国の「新水道ビジョン」が示す「安全」「強靱」「持続」の考え方の下、将来にわたり安心して安定した水道事業を継続するため、本町水道事業の将来像を明確化・共有することを目的として「羅臼町水道事業ビジョン」を策定します。

本ビジョンの計画期間は2026（令和8）年度から2035（令和17）年度までの10年間とし、目標年度を2035（令和17）年度とします。

2. 基本理念（将来像）・基本目標

国の「新水道ビジョン」が示す「安全」「強靱」「持続」の考え方を踏まえ、本町水道事業の基本理念（将来像）を「人と暮らしを支え、未来へ水をつなぐ羅臼の水道」と定めます。

この将来像の実現に向け、「安心・安全な水道水の供給」、「災害に強い水道基盤の構築」、「将来を見据えた健全経営の推進」を基本目標として、本町水道事業の抱える課題に取り組んでいきます。



3. 水道事業の課題

本町水道事業の課題については、新水道ビジョンが示す「安全」「強靱」「持続」の3つの観点に基づき整理します。

① 安全

- 水源におけるリスク
- 不十分なセキュリティ対策
- PFAS への備えと水質管理体制の強化

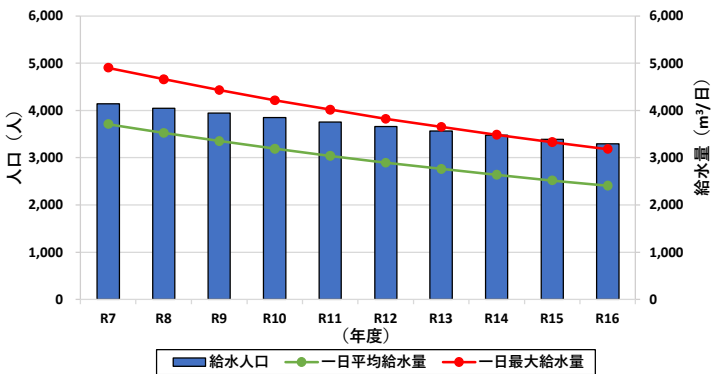
② 強靱

- 施設の老朽化
- 不明確な管路
- 未策定となっている計画
- 災害対策
- 強靱化計画に基づく水道インフラの対応状況

③ 持続

- 水需要の減少
- 脆弱な管理体制
- 高水準な水道料金
- 自然保護地域における課題
- 小規模水道の課題と統合の可能性
- 省エネ・創エネ設備の導入に向けた課題
- 広域連携

項目	PI値		改善度 H29→R4
	H29	R4	
漏水率（％）	60.4	67.4	↓ -12%
有収率（％）	39.6	32.6	↓ -18%
管路の更新率（％）	0.0	0.0	⇒ 0%
管路の耐震化率（％）	1.8	2.5	↑ 36%
浄水施設の耐震化率（％）	0.0	0.0	⇒ 0%
配水施設の耐震化率（％）	0.0	0.0	⇒ 0%



4. 基本方針と施策体系

以下に示す基本方針に基づき、水道事業を取り巻く課題に対応しながら、施設整備や維持管理、事業運営等に関する各種施策を計画的に実施し、将来にわたり安定した水道事業の運営を進めていきます。

基本目標	基本方針	施策
安全 安心・安全な水道水の供給	①水源開発の検討	1) 水源の変更
	②水質管理体制の強化	1) 水質の監視 2) 水質基準項目にPFASの追加
	③安全対策の強化	1) 防護柵の設置 2) 防犯カメラの設置
強靱 災害に強い水道システムの構築	④計画的な施設・管路管理の推進	1) 各種計画の策定 2) 管路台帳の作成
	⑤災害に強い水道施設の整備	1) 施設の耐震化・統廃合 2) 応急給水設備の設置
	⑥危機管理体制の強化と関係機関との連携	1) 羅臼町強靱化計画に基づいた施策の促進
持続 将来を見据えた健全経営の推進	⑦中長期的視点に立った施設規模の最適化	1) 施設のダウンサイジング 2) 小規模水道との統合検討・認可変更
	⑧効率的で安定した事業運営の推進	1) 経営の効率化 2) 維持管理委託 3) 設備投資の優先順位見直し 4) 広域連携に関する情報収集
		1) 国庫補助金の活用
		1) 自然保護地域を念頭に置いた更新検討 2) 小水力発電や太陽光発電の導入検討
	⑨多様な財源確保による経営基盤の強化	1) 国庫補助金の活用
	⑩環境に配慮した持続可能な水道事業の推進	1) 自然保護地域を念頭に置いた更新検討 2) 小水力発電や太陽光発電の導入検討
		3) 省エネ設備の導入検討

5. フォローアップ

本ビジョンの推進にあたっては、PDCAサイクルを用いて、事業の継続的な改善を図ります。策定した目標と施策に基づき事業を実施し、毎年度その進捗と成果を確認します。また、計画期間の中間年度にあたる2031（令和13）年度にはフォローアップを行い、社会環境の変化を踏まえながら必要に応じて見直しを行います。これにより、将来にわたり安全で持続可能な水道運営を確保します。

